

—原著—

新潟労災病院歯科口腔外科における顎顔面骨折症例の臨床統計的検討

高山裕司, 武藤祐一, 松井 宏

新潟労災病院歯科口腔外科
(部長: 武藤祐一)A Clinical Study of Maxillofacial Bone Fracture at the Department of Dentistry
and Oral-Maxillofacial Surgery in Niigata Rousai Hospital

Yuuji Takayama, Yuuichi Mutoh, Hiroshi Matsui

Department of Dentistry and Oral-Maxillofacial Surgery, Niigata Rousai Hospital
(Chief: Yuuichi Mutoh)

平成 26 年 4 月 10 日受付 平成 26 年 4 月 11 日受理

キーワード: 顎顔面骨折, 臨床統計, 下顎骨骨折, 高齢者

Key words: Maxillofacial bone fracture, Clinical study, Fracture of mandible, Elderly patient

Abstract

A clinical study of maxillofacial bone fracture at the department of dentistry and oral-maxillofacial surgery, Niigata Rousai Hospital in January 1999 and December 2011 gave following findings.

- ① There were 110 patients during the period of time; 81 males and 29 females, a sex ratio 3:1.
- ② Most of the patients were 10 to 29 years and 50 to 59 years old, with recent increases in elderly patients aged over 65 years.
- ③ The most common referral was another general hospital (22.7%), followed by the emergency outpatient unit (21.8%) and dental clinics (10.9%).
- ④ The most common fractures were those of the mandible (67.3%), followed by the zygoma-maxilla (10.0%) and the maxilla (7.3%).
- ⑤ The most common treatment was open reduction (69.1%), with other patients being treated with closed reduction (11.8%) and other methods (19.1%).

It is predicted that the ratio of the elderly patient will increase relatively rapidly in the near future due to the aging society, and it is necessary for consider the hospital and family doctor in order to optimal management of maxillofacial bone fracture.

抄録

今回、私たちは、1999年1月から2011年12月までの13年間に新潟労災病院歯科口腔外科において入院下に1次治療を行った顎顔面骨折患者に対して臨床統計的検討を行った。

- ① 対象期間中の症例数は全110例であった。性別では男性81名(73.6%)、女性29名(26.4%)であり、男女比は3:1と男性に多かった。
- ② 年齢分布では10～20歳代と50歳代に多く、近年では65歳以上の高齢者が増加していた。
- ③ 受診経路では、他の総合病院からの紹介が最も多く25例(22.7%)で、次いで救急外来からの紹介が24例(21.8%)、開業歯科医院からの紹介が12例(10.9%)であった。
- ④ 受傷部位では最も多かったのが下顎骨で74例(67.3%)、次いで、頬骨上顎骨が11例(10.0%)、上顎骨が8例(7.3%)であった。

⑤ 治療法では、観血的整復固定術が76例(69.1%)、非観血的整復固定術13例(11.8%)、その他が21例(19.1%)であった。

今後は高齢者の増加と共に顎顔面骨折患者は増加することが十分に考えられ、その対応について院内関連部署および地域の医療機関との連携について検討する必要があると考えられた。

【緒 言】

新潟労災病院は新潟県上越市にあり、隣接する糸魚川市、妙高市合わせて(以下、上越地域)人口約30万人の医療圏である。当院は、病床数360床、18診療科を有する急性期病院で、地域医療支援病院およびがん診療拠点病院に指定されており、地域医療に対する貢献度は高い。その中で、歯科口腔外科(以下、当科)は口腔外科医2名、歯科麻酔医1名体制で、日常の外来および入院診療を行っている。今回、私たちは当科における顎顔面骨折について受診状況や治療方法および今後の課題について検討するため臨床統計的検討を行ったので報告する。

【対象と方法】

対象は1999年1月から2011年12月までの13年間に当科で入院下に1次治療を行った顎顔面骨折患者110例とした。調査項目は、①年次推移および性別、②年齢、③居住地、④受傷月、⑤受診経路、⑥受傷原因、⑦受傷部位および⑧治療法とした。調査方法は、外来カルテ、入院カルテおよび画像資料などを用い検討した。

【結 果】

① 年次推移および性別 (図1)

対象期間中の患者総数は110名で、年平均8.4例であった。年次で最も多かったのは2002年と2008年の14例で、最も少なかったのが2007年の4例であり、年次によりばらつきがあった。性別では、男性81名(73.6%)、女性29名(26.4%)であり、男女比は約3:1と男性が圧倒的に多かった。

② 年齢分布 (図2)

年齢分布では、最高年齢90歳、最低年齢6歳で、10~20歳代と50歳代にピークがあった。性別で見ると、10~20歳代は男性が多くみられたが40歳代以降は女性の割合が若干増加傾向にあった。65歳以上の高齢者は20例(18.2%)であり年々増加傾向にあった。

③ 居住地 (図3)

居住地では、最も多かったのが当科のある上越市で71例(64.5%)、次いで、隣接する糸魚川市が22例(20%)、妙高市6例(5.5%)であった。上越市は平成16年に市町村合併があり、旧上越市以外の新しく上越市となった地域からの受診は34例(30.9%)で、近隣からの受診だけでなく、合併した市町村や隣接地域からの受診も多

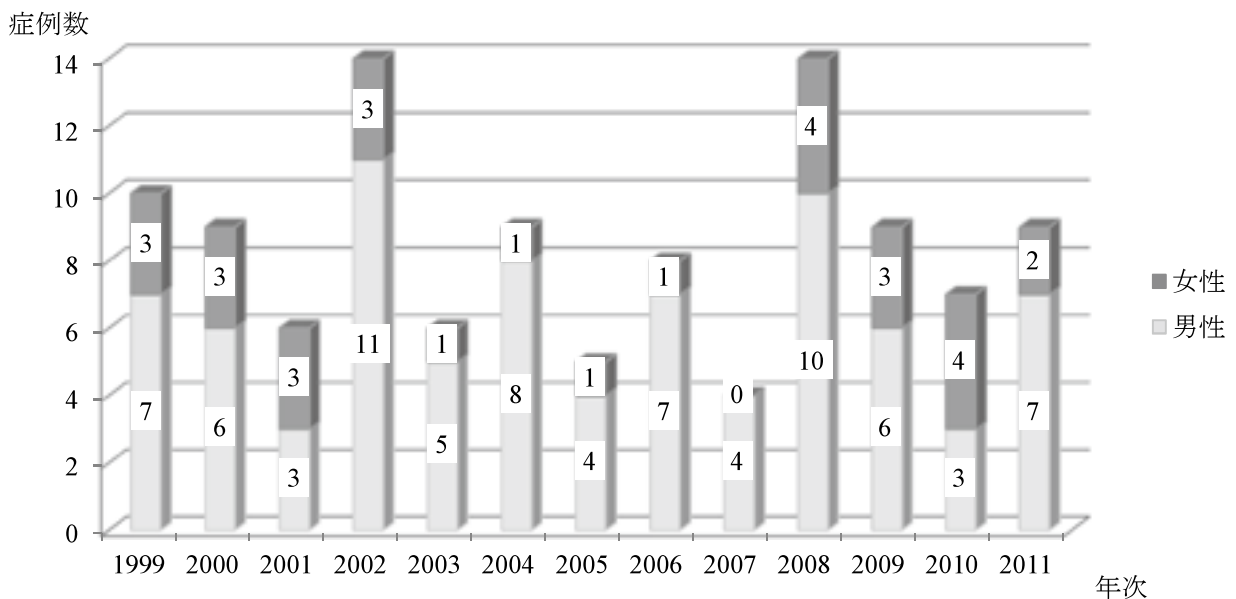


図1 年次推移